

栃木県原水協ニュース

No 177号 2018年4月6日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

2018年国民平和進行実行委員会結成総会開かれる



3月31日(土)午後、とちぎ健康の森において、「2018年国民平和進行栃木県実行委員会結成総会」が原水協参加団体・各地域の代表者・個人等の参加で開催され、実行委員長に天谷静雄さんが選出されました。

第一部で、DVD「戦争のない未来を」を視聴し、原水爆禁止運動の歴史などを学びました。その後、3・1ビキニ参加者たちからの報告・感想が述べられました。

第二部の総会議事では、天谷実行委員長が選出と挨拶の後、副実行委員長、事務局が左記の通り選出・承認されました。事務局からの進行日程、自治体要請、賛同者募集、財政の提案の後、質疑・討論が行われ、県労連からの閉会挨拶で、新たな決意と展望をもって閉会となりました。

- 実行委員長** 天谷 静雄
副実行委員長 藤木智恵子
 県北 我妻美津雄 県央 福田道夫
 県南 町田順一・近藤文雄
 芳賀 飯塚 正
 事務局 大岩 浜野 小久保

▼天谷実行委員長あいさつ(要旨)
 平和進行は1958年以来綿々と続けられてきた。先人たちの核廃絶の思いを強く引き継いでいこう。昨年は核兵器禁止条約が採択され、新たな歴史の1ページが切り開かれた。被爆国日本の核廃絶運動の果たす役割は大きい。皆さんの力を結集して2018年世界大会成功に向けて、確かな一歩を踏み出していこう。

「ヒバクシャ国際署名」に向けての幅広い協力を進める取り組みが全国で進められているが、栃木県でも世界大会までに、「県民の会」の準備会を結成したい。また、これまで、当実行委員会には各自治体要請を担ってきたことを踏まえて、「核兵器禁止条約」の日本政府の署名と批准を求める意見書」の採択を求める陳情・請願を各市・町議会に国民平和進行実行委員会として行いたい。一昨年から行っている平和進行賛同者もさらに広く呼びかけていきたい。

▼進行日程の報告
 6月30日(土) 福島からの引き継ぎ(7月14日(土) 埼玉に引き継ぎまで。また、今年も、栖原秀夫(すはらひでお)さん(神奈川県平和委員会推薦 68歳が本県を通し行進予定。これらを各地域に持ち帰り、第二回実行委員会(5月19日)までに細部が検討されることになりました。

▼討論・各地域の取り組み・要望等
 ・高齢行進者の健康面・体力を配慮して計画を立てている。行進する時間の再検討を考えている。
 ・行進実行委員会の組織を理解できたので、昨年より上手くやりたい。
 ・自治体交渉・ペナント・首長署名などの他の自治体の実態、写真等を用意、知らせたい。
 ・中学生広島派遣の取り組み実態を集約して、討議資料として出して欲しい。(各自治体の情報を事務局に寄せてください)

現在の「ヒバクシャ国際署名」数

諸団体	県北原水協	1, 969筆
	県南原水協	62筆
	宇都宮市原水協	1, 131筆
	非核の会	128筆
	新婦人の会	6, 225筆
	民医連	1, 817筆
	保険医協会	291筆
	県原水協	134筆
	小山推進委員会	100筆
	非核下野市の会	264筆
県労連	23筆	
自治体	日光市	953筆
	下野市	238筆
	栃木市	81筆
	小山市	40筆
川上	160筆	
合計	13, 616筆	

(3月31日現在)



那須町の森、四郎さん、遠藤道信さんからの報告があり、また頑張ろうと確認しました。

3・1ビキニデー報告会
 県北原水協では3月24日、ビキニデー集会参加者の報告会が14名の参加で行われました。那須町から参加した泉さんから3年前の組合機関誌に、1950年に取り組まれたストックホルムアピール署名の段ボールが保管されている倉庫の写真が紹介されました。また、那須烏山市から参加した被爆者の小松宏生さんからは、ビキニデー大会の感動と被爆体験の状況が話されて、今後の運動に励ますものとなりました。

3・1ビキニデーに参加して

那須烏山市 小松宏生

3・1ビキニデー。私にとって、それに参加するのは初めてです。ビキニ環礁での水爆実験をリアルタイムでは知っていましたが、「広島を1000倍の威力だつてよ」と報道を聞いて身体中が震えましたから。

2月28日の原水協の全国集会では被団協事務局次長の和田征子さんの「核兵器禁止条約にサインする政府を」という力強いご発言があり、分科会になって、私が参加した「被爆体験と実相談を」では、私自身11才で広島で被爆しましたが特別発言は控えて他の方たちの発言を聞きました。私より年上の方が数名いらして、特に90才の男性の発言で「宇品の港から戦地へ送られる兵隊が多数いた。戦争は絶対にかん。核兵器はもつての他だ」と。本当に心に響きました。3月1日、ビキニデー、晴天でも強風の中、焼津港をズーッと行進して久保山さんの墓所へ。日本各地からの多数の人、人、ひとでびっくりしました。栃木県からの参加の十数名の方たちも「うたごえ」の皆さんにあわせてしっかりとテーマソングを唱ってらっしゃいましたよ。

<裏面にも感想あります>

お知らせ

2018年原水爆禁止国民平和進行栃木県実行委員会(第2回)の開催について
 日時: 5月19日(土) 午後2時~
 会場: 栃木県労連事務所

3・1 ビキニデーに参加して

県北原水協 遠藤 道信

最初は「ビキニデー」って何だろう？恥ずかしい話疑問でした。自分の勉強の無さに苛立ちさに腹が立ちました。今回、縁があり夢にまで見た「ビキニデー」に参加させていただきました。2月28日電車班7名が東京駅に集合して会場である東静岡駅に出発、現地で車班4名と合流、会場であるグランシップに11名が、日本原水協全国集会に参加いたしました。テーマが「核兵器禁止条約を力に、核兵器のない世界、非核平和の実現を」、主催者・来賓挨拶の後、安井正和事務局長の基調報告があり、特別発言などが催され全国から850名の参加の熱気に包まれました。直後、分科会が各6会場で開催され、私はビキニ事件と原水爆禁止運動「入門編」に参加しました。

2日目は、当日3名が加わり栃木県から14名で午前中、突風の中、献花墓参平和行進・久保山愛吉氏墓前祭に参加しました。その後バスと車で焼津市文化センターへ移動。午後から、被災64年3・1ビキニデーに参加、「うたごえ」の皆さんによるオープニング、主催者・来賓挨拶、ビキニ被災事件を語る、「ビキニ被災64年2018年3・1ビキニデー集会アピール」の採択が行われ、閉幕しました。

今回、参加してビキニ被災は、「第5福竜丸」だけではないということが発見できたことは収穫でした。この感動を今後の活動に生かしたい。本当にありがとうございました。

新しい発見と体験

――3・1ビキニデーに参加して――

新婦人宇都宮支部代表参加 増山民江

朝鮮のことを知りたくて、分科会は「北朝鮮と核問題―非核平和のアジアをめざして」を選びました。3時間もの内容で十分理解できていませんが、核兵器は抑止力にはならない、憲法9条の重みが益々わかりました。パネラーは、アメリカのガーソンさん、韓国のイ・ジュンチュさん、川田忠明さんでした。

隣が高知の方で、『ビキニ核被災ノート』を紹介されて買うことに。60年も隠されていたビキニ被災を新しく知るきっかけになりました。高校生の調査活動から始まったとのこと。若い人の行動に驚きです。

3月1日は、春の低気圧通過で天気が気になりましたが、雨もあがり、青空の下、献花墓参平和行進に参加。後ろを振り返ると長い長い隊列が続きびっくり。久保山愛吉さんの「原水爆の犠牲者は、私を最後にして欲しい」の願いを受け継ぐ運動の大会に参加できてよかったです。久保山さんに赤いバラの花を献花し、平和を想いました。同行の皆さんに感謝。

3・1 ビキニデーに参加して

那須町・泉理人

図らずも県代表の一員として第64回ビキニデーに参加させていただきました。

ビキニデーには初めての参加でした。

全国から代表は千人近い人たちの参加がありましたが、20代・30代と思われる若い世代がとても多く、特に女性が多いように思われました。大変素晴らしいことだなア、と感心しきりでした。

基調報告で安井日本原水協事務局長は、① ICAN のノーベル平和賞受賞に示されるように、「核兵器のない世界」を目指す事業において市民社会の役割が飛躍的に高まっている、② 核兵器禁止条約が採択され、核兵器は人類史上初めて明文上も違法化され「悪の烙印」が押された、の2点を強調されました。

全国からの報告では、「創価学会、生長の家、カトリック大司教などからもヒバクシャ国際署名を集めている(長崎)、あと1名で県内全首長からの署名を達成(岩手)など進んだ活動の報告がありました。

「原発ゼロ、被災地支援、自然エネルギーへの転換をめざして」の分科会では、「みんなで資金を出し合ってソーラーパネルを設置し、発電を行っている。出資者には春秋にフルーツが届く」(京都)、「玄海原発を止める訴訟は原告1万人余で、既に24回の法廷が開かれた」(佐賀)などとても豊かで、勉強になる発言が続きました。

(歳を取っていることの証明ですが…)私は、1954年3月被災した第五福竜丸が焼津港に帰港した際、ラジオから聞こえてくるガイガーカウンターのガーガーという音を聞いた記憶があります。また1968年、埋立途中だった夢の島に沈みそうになりながら係留されていた第五福竜丸の前から出発した平和行進に参加したことも思い出されます。核兵器を本当になくするために、少しずつでも前に進みたいと考えています。

核兵器禁止条約を力に核兵器のない世界を ― 被災64年2018年3・1ビキニデーに参加して 森 四郎

県北原水協から(遠藤、泉、小松、森)4人が参加(全国850人参加)

28日(水)朝8時16分の黒磯駅発の電車に乗り途中新幹線で泉さんと合流、東京駅で県原水協の仲間と合流し全体集会の静岡グランシップに向かった。車中から例年より少ない?雪を被ったくっきりとした富士山が顔を見せてくれました。

28日全体集会 基調報告でダイナミックに行動をと、三つ(被爆者国際署名、被爆の実相普及、自治体意見書決議)の提起がありました。

来賓の被団協事務局次長 和田征子さんは、ビキニ事件の時、女性たちをはじめ、日本の各地で取り組まれた3000万人を超える署名は、政府に見捨てられ身を小さくして暮らしてきた被爆者を発掘する運動へつながり、原水爆禁止世界大会の開催、日本被団協の結成へと至り、結成宣言で被爆者は「自分を救うと共に、体験を通して人類の危機を救う」と決意し歩み始めた。長く望んできた重い扉がゆっくりと開き一条の光が差し込んできたと、この集会の特別な思いのあいさつを聞きました。全国からの発言者は多彩に元気に頑張った経験を意気高く報告していました。

分科会・第4分科会「原発ゼロ、被災地支援、自然エネルギーへの転換めざして」

15人の報告があり、最後に、私は環境省が進める那須の除染土実証事業について、環境省の実証事業について(案)、再利用に関する資料と新聞記事を紹介し那須町だけの問題にとどまらない問題と住民の不安に対する説明会の開催を求めている事を報告しました。(泉さんと森が参加)県の仲間との夕食交流会に参加しました。

1日の献花墓参平和行進・久保山愛吉墓前祭がおこなわれ、平和行進は、焼津駅に着いたときはまだ人が少なかったのですがみるみる道路にあふれ行進が始まり長〜い・長〜い行列になり数カ所で深紅のバラが販売され献花して押し出されるように会場を後にし、墓前祭会場からバスで焼津市文化センターに向かい、被災64年3・1ビキニデー集会に参加しました。貴重な体験させて頂きありがとうございました。